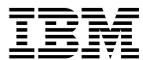


IBM IntelliStation

SA88-6693-00

プロフェッショナル・ワークステーション
初期導入済ソフトウェアについて III
(Windows NT 4.0 モデル)





IBM IntelliStation

SA88-6693-00

プロフェッショナル・ワークステーション
初期導入済ソフトウェアについて III
(Windows NT 4.0 モデル)

— お願い —

本書の情報および、本書がサポートする製品をご使用になる前に、必ず61ページの付録B、『プログラムのご使用条件の表示』および 63ページの付録C、『特記事項および商標』をお読みください。

第 1 版 (1999 年 3 月)

本書において、日本では発表されていないIBM製品（機械およびプログラム）、プログラミング、およびサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、IBMがこのようなIBM製品、プログラミング、およびサービスを、必ずしも日本で発表する意図であることを示すものではありません。

原 典： 01K4667
About Your Software
Windows NT Workstation 4.0, Applications,
and Support Software

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 1999.3

©Copyright International Business Machines Corporation 1999. All rights reserved.

Translation: ©Copyright IBM Japan 1999

本書について	v
第1章 ソフトウェアの概要	1
初期導入済みソフトウェア	1
すぐに導入できるソフトウェア	3
第2章 始動	5
本製品の初めての始動	5
始動する前に必要なこと	5
Windows NT セットアップ・プログラムの実行	6
Windows NT Setup Boot Disk の作成	7
要件	8
ディスクの作成	8
デスクトップ・アプリケーションに慣れる	9
IBM ウェルカム・センターの使用	10
IBM ウェルカム・センターへのアクセス	11
ソフトウェア導入プログラムの使用方法	11
オンライン・ブックの表示	13
コンピューターの終了	13
第3章 追加のソフトウェア	15
Norton AntiVirus for IBM	15
ConfigSafe	16
IBM System Management Tools	18
IBM System Management Tools の構成要素	18
IBM System Management Tools の導入	21
IBM Universal Management Agent	21
IBM Universal Management Agent Components	22
IBM Universal Management Agent Plus	23
第4章 Windows NT の再導入	25
Windows NT CD の使用法	25
プロダクト・リカバリー CD の使用法	26
Startup Sequence の変更	27
第5章 サポート CD の使用方法	29

CD の機能	29
CD の始動	30
第6章 診断プログラムの使用法	31
IntelliStation Diagnostics Diskette	31
IntelliStation Supplemental Diskette	32
付録A. Windows NT 4.0 の詳細導入手順	35
A. Adaptec 7800 Family Manager Set (SCSI Drivers) 用ドライ バー・ディスクットの作成	35
B. Windows NT 4.0 のインストール	36
C. ドライバーのインストール	45
C - 1. ビデオのドライバーの導入 (Matrox Millennium G200 ア ダプターの場合)	45
C - 1'. ビデオのドライバーの導入 (Intergraph Intense 3 D アダ プターの場合)	48
C - 2. パスマスター IDE のドライバーの導入	50
C - 3. イーサネット (Intel EtherExpress) ・ドライバーの導入 ..	52
C - 4. Cirrus Logic CrystalClear Audio ドライバーの導入 ..	54
D. Windows NT Service Pack 4 のインストールと Windows NT 4.0 の 2000 年問題を解決する Y2KSETUP.EXE の実行	56
E. IBM Fire GL1 グラフィックス・アダプター用ビデオのドライバ ーの導入	58
F. Intel(R) Streaming SIMD Extensions Driver のインストール ..	59
G. 同梱アプリケーションのインストール	60
付録B. プログラムのご使用条件の表示	61
付録C. 特記事項および商標	63
特記事項	63
商標	63

本書は、ユーザーのコンピューター資料の情報を補足します。今後参照するときのために、本書は他のコンピューター資料と一緒に保管しておいてください。

本書には、本製品に付属の初期導入済みソフトウェアとその他のソフトウェアについての一般情報が記載されています。

本書の構成は次のとおりです。

- 1ページの第1章、『ソフトウェアの概要』では、本製品に付属の初期導入済みソフトウェアと、すぐに導入できるソフトウェアについての概要を説明しています。
- 5ページの第2章、『始動』には、本製品を初めて使用するとき役立つ情報と、ソフトウェア機能のいくつかを理解するための情報が記載されています。
- 15ページの第3章、『追加のソフトウェア』では、Norton AntiVirus for IBM、ConfigSafe、IBM System Management Tools および IBM Universal Management Agent の各プログラムを導入して使用する方法を説明しています。
- 25ページの第4章、『Windows NT の再導入』では、Windows NT Workstation 4.0 の再導入について説明しています。
- 29ページの第5章、『サポート CD の使用方法』では、サポート CD で提供されるソフトウェアの導入または再導入について説明しています。
- 31ページの第6章、『診断プログラムの使用法』では、本製品に付属の診断プログラム IntelliStation Diagnostics Diskette と IntelliStation Supplemental Diskette に関する情報が含まれています。
- 35ページの付録A、『Windows NT 4.0 の詳細導入手順』には、Windows NT 4.0 の再導入手順がステップごとに詳細に記載されています。
- 61ページの付録B、『プログラムのご使用条件の表示』には、ユーザーのソフトウェア・ライセンス情報についての閲覧方法が記載されています。
- 63ページの付録C、『特記事項および商標』には、特記事項と商標の情報が記載されています。

本製品には、Microsoft Windows NT Workstation 4.0¹、アプリケーション・プログラム、診断ツール、およびデバイス・ドライバーといったさまざまなソフトウェアが付属しています。これらのソフトウェアには、初期導入されているものと、すぐに導入できるものがあります。

マイクロソフト社のソフトウェアを除き、残りの全てのソフトウェアは、IBM プログラムのご使用条件 (保証適用外プログラム用) によってライセンスを受け、そのライセンス情報はこの冊子の付録B に書かれた方法によって参照できます。

初期導入済みソフトウェア

Windows NT 以外に、下記のソフトウェアが初期導入済みです。

- IBM ウェルカム・センター。ここを中心として、ハード・ディスクのパーティション設定、IBM 提供のソフトウェアの導入、日付と時刻の設定、プリンターの設定、オンライン・ブックの表示、サポート CD の始動、および IBM 製品とテクニカル・サポートについての情報の表示を実行します。
- 出荷時導入済みハードウェア用のデバイス・ドライバー。
- Service Pack 4。Microsoft が Windows ユーザーに提供している Windows NT の更新ファイルです。ユーザーの手間を省くため、Service Pack 4 は IBM によってハード・ディスクに導入されています。このソフトウェアに関する重要な情報については、9 ページを参照してください。
- Internet Explorer 4.0 SP1a。これは Internet Explorer の最新バージョン (99 年 2 月現在) です。このソフトウェアに関する情報は、9 ページの『デスクトップ・アプリケーションに慣れる』を参照してください。

導入済みソフトウェアについての詳細は、5 ページの第2章、『始動』に記載されています。

¹ Microsoft Certificate of Authenticity は、本製品に導入されている Windows NT ソフトウェアが、Microsoft Corporation から合法的にライセンスを受けていることを保証するものです。

重要:

1. 導入済みソフトウェアのバックアップ・ディスクは、本製品には付属していません。ただし、サポート CD には IBM 初期導入済みプログラムとデバイス・ドライバーのほとんどが入っています。

さらに、マイクロソフト社 Windows NT ワークステーション 4.0 CD (Microsoft 社提供のもので、IBM による修正はありません)、または、プロダクト・リカバリー CD のいずれか一方が同梱されています。この Windows NT 4.0 CD には、コンピューターに導入済みの更新済みデバイス・ドライバーや、その他のソフトウェアは含んでいません。オペレーティング・システムを再導入する必要がある場合は、サポート CD とともに、*Microsoft Windows NT CD* (および注 4b (3ページ) で説明されているディスク) を使用してください。(Windows NT オペレーティング・システムと導入済みソフトウェアのディスクは、IBM から入手することはできません。) Windows NT の再導入の詳細については、25ページの第4章、『Windows NT の再導入』を参照してください。

一方、プロダクト・リカバリー CD には、Windows NT 4.0 と全ての初期導入されたアプリケーションやドライバーが含まれています。プロダクト・リカバリー CD を用いて Windows NT や初期導入されたソフトウェアを再導入するための詳細については、26ページの『プロダクト・リカバリー CD の使用法』を参照してください。

2. インターネット (World Wide Web) を使って、最新のデバイス・ドライバーを入手することができる場合があります。
URL は、<http://www.ibm.co.jp/download.html> です。
3. ハード・ディスクには 2 GB² のパーティションがあります (ドライブ C と呼ばれます)。このパーティションには、Windows NT とその他の初期導入済みソフトウェアが入っています。残りのハード・ディスク・スペースは未フォーマットのままなので、ユーザーが任意にフォーマットしてパーティションを設定できます。(この残りのハード・ディスク・スペースは、パーティションを設定しなければ使用できないので注意して

² ハード・ディスク・ドライブの容量を示す場合は、1 GB は 1 000 000 000 バイトを意味します。ユーザーがアクセスできる合計容量は、操作環境によって異なる場合があります。

ください。)『始動』の章の注 4 (6ページ) で詳しく説明されているように、ディスク管理ツールが IBM ウェルカム・センターにあります。

4. できるだけ早いうちに、以下のディスクットを作成してください。
 - a. *Microsoft Windows NT* システム修復ディスク。このディスクットは、回復作業のために使用できます。(このディスクットの作成方法については、コンピューターに付属の Windows NT のマニュアルを参照してください。)
 - b. *Microsoft Windows NT Setup Boot Disk*。これらのディスクットは、Windows NT の再導入が必要になった場合に、Windows NT の CD とともに使用する必要があります。プロダクト・リカバリー CD が同梱されているシステムでは不要です。(これらのディスクットの作成手順については、7ページの『Windows NT Setup Boot Disk の作成』を参照してください。)
 - c. 診断プログラムの「IntelliStation Diagnostics Diskette」と「IntelliStation Supplemental Diskette」ディスクット。このブート可能なディスクットは、コンピューターの問題を識別するために使用することができます。(このディスクットの作成方法については、31ページの第6章、『診断プログラムの使用法』を参照してください。)

すぐに導入できるソフトウェア

IBM 初期導入済みのプログラムとデバイス・ドライバに加えて、サポート CD またはハード・ディスク、あるいは CD とハード・ディスクの両方に、すぐに導入できるソフトウェアが入っています。必要に応じて、導入するプログラムを決めてください。

注:

1. 導入できるソフトウェアのうち、Norton AntiVirus for IBM、ConfigSafe、および IBM System Management Tools または IBM Universal Management Agent は、ハード・ディスクとサポート CD に入っています。これらの製品をハード・ディスクから導入する方法については、11ページの『ソフトウェア導入プログラムの使用方法』を、

製品の説明については 15ページの第3章、『追加のソフトウェア』を参照してください。

- 次に、サポート CD で提供されている Windows NT 用ソフトウェアの一部をリストします。CD に収録されるソフトウェアは変更されることがあり、このリストと異なる場合があります。CD の詳細については、29ページの第5章、『サポート CD の使用方法』を参照してください。

IBM インターネット接続サービス

このソフトウェアを使用すれば、IBM Global Network を通じてインターネットに接続できます。

IBM Netfinity Services

本製品のハードウェアとソフトウェアに関する詳細情報の表示、Desktop Management Interface (DMI) 情報のブラウズ、アラートの設定、さまざまなシステム資源のモニター、および資産のセキュリティー管理を行うためのソフトウェアです。Netfinity Manager が導入されているネットワークに本製品を接続すれば、Netfinity Manager が資産管理のための情報を収集し、本製品の動作を監視することができます。

この章は、コンピューターを使用して操作を始めるために役立つ情報を記載しており、以下のことを説明しています。

- コンピューターを初めて始動する前に必要なこと、および始動した後に起こること。
- 以下の内容について。
 - Windows NT Setup Boot Disk を作成する
 - デスクトップ・アプリケーションにアクセスして使用する
 - IBM Welcome Center (Windows NT のデスクトップの「IBM ウェルカム・センター」アイコン) から情報にアクセスし、操作を実行する
 - ソフトウェア導入プログラムを使用する
 - オンライン・ブックを表示する
 - 本製品を安全に終了する

本製品の初めての始動

Windows NT に初めてアクセスするときは、その前に Windows NT のセットアップ手順を完了する必要があります。

重要

コンピューターを初めて始動したときは、セットアップ手順を完了するまではコンピューターの電源を切らないでください。電源を切った場合、予期しない結果が生じる可能性があります。

始動する前に必要なこと

Windows NT のセットアップ手順を始める前に、次のものを用意する必要があります。

- 本製品に付属の Windows NT のマニュアル (本章に記載されている情報よりも詳細な情報が必要な場合)
- Microsoft Certificate of Authenticity (Windows NT のマニュアルの表紙に添付されています) のプロダクト ID 番号

- ネットワーク管理者からのネットワーク情報 (該当する場合)
- プリンターのモデルと、プリンターが使用するポート (プリンターが本製品に直接接続されている場合)

Windows NT セットアップ・プログラムの実行

セットアップ・プログラムがまだ実行されていない場合は、コンピュータを始動するとセットアップ・プログラムが実行されます。このプログラムは、選択したり情報を入力したりするためのプロンプトを必要に応じて出します。以下の注に記載されている情報よりも詳細な情報が必要な場合は、Windows NT のマニュアルを参照してください。

注:

1. コンピューターの始動時に実行されるセットアップ・プログラムは、Windows NT のマニュアルに記載されているものとは少し異なります。Windows NT のマニュアルに記載されている選択項目のいくつかは、事前に設定済みなので表示されません。
2. セットアップ手順の間に、Windows NT のライセンス契約を承諾したことを示す必要があり、入力を求められたら Certificate of Authenticity にあるプロダクト ID 番号を入力する必要があります。Certificate of Authenticity は、Windows NT の説明書の表紙に添付されています。
3. セットアップ手順が完了してシステムが再始動した後、プロンプトで指示されたら、**Ctrl+Alt+Delete** キーを押してログオン・ウィンドウを表示します。ログオン手順が完了すると、Windows NT デスクトップが表示されます。
4. ハード・ディスクには、2 GB のパーティションがあります (ドライブ C と呼ばれます)。このパーティションには、Windows NT とその他の初期導入済みソフトウェアが入っています。残りのハード・ディスク・スペースは未フォーマットのままなので、ユーザーが任意にフォーマットしてパーティションを設定できます。(この残りのディスク・スペースは、パーティションを設定しなければ使用できないので注意してください。)

ディスク管理ツールが IBM ウェルカム・センターにあります。ウェルカム・センターにアクセスする方法については、10ページの『IBM ウ

エルカム・センターの使用』を参照してください。残りのディスク・スペースを設定するためのツールにアクセスするには、「IBM ウェルカム・センター」ウィンドウで「始めに」をクリックし、スクロールして「ハードディスクのパーティションのセットアップ」をクリックします。

ハード・ディスク・ドライブは、複数の論理ドライブに分割する（パーティションを設定する）ことができます（C:、D:、E: など）。別のオペレーティング・システムを導入したい場合は、別の基本（ブート可能）パーティションに導入できます（拡張パーティションはブートできません）。

5. できるだけ早いうちに、Windows NT のシステム修復ディスクを作成してください。このディスクは、回復作業用に使用できるものなので、必ず作成します。システムに機能を追加する場合は、新しいシステム修復ディスクを作成して、ディスクが現在のシステム構成を反映するようにします。ディスクの作成と使用についての詳細は、Windows NT のマニュアルに記載されています。
6. お使いのシステムに Windows NT CD が、同梱されている場合はできるだけ早いうちに、Windows NT CD から Windows NT Setup Boot Disk を作成してください。作成手順については、この章の次の項で説明します。

Windows NT Setup Boot Disk の作成

お使いのシステムには、マイクロソフト Windows NT CD またはプロダクト・リカバリー CD のいずれかが同梱されています。プロダクト・リカバリー CD が同梱されているシステムでは、Setup Boot Disk を作成する必要はありません。

もし、お使いのシステムにマイクロソフト Windows NT CD が同梱されている場合はできるだけ早いうちに、マイクロソフト Windows NT CD から Windows NT Setup Boot Disk を作成してください。これらのディスクは、Windows NT の再導入が必要になった場合に、マイクロソフト Windows NT CD とともに必要になります。

注: Windows NT システム修復ディスクとともに Setup Boot Disk を使用して、回復作業を行うこともできます。（システム修復ディスクを作成する手順については、Windows NT のマニュアルを参照してください。）

要件

Setup Boot Disk を作成するには、次のものがが必要です。

- フォーマット済みでブランクの 2HD ディスケット 3 枚
- マイクロソフト Windows NT CD (Windows NT のマニュアルに付属)

MS-DOS、Windows 3.1、Windows for Workgroups、Windows 95、Windows 98、または Windows NT Workstation 4.0 を実行しているコンピューターで、ディスクを作成できます。

ディスクの作成

Setup Boot Disk を作成する手順は、次のとおりです。

1. CD-ROM ドライブに Windows NT CD を挿入します。
2. コマンド・プロンプトで、CD-ROM のドライブ名に切り替えます。たとえば、e: (e は CD-ROM ドライブ名) と入力して **Enter** キーを押します。
3. コマンド・プロンプトで、CD 内の該当するプラットフォームのフォルダーに切り替えます。たとえば、cd ¥I386 (x86 ベースのコンピューターの場合) と入力して **Enter** キーを押します。
4. コマンド・プロンプトで、次のどちらかを行います。
 - a. 使用しているコンピューターが Windows NT を実行している場合は、winnt32 /ox と入力して **Enter** キーを押します。
 - b. 使用しているコンピューターが MS-DOS、Windows 3.1、Windows for Workgroups、Windows 95、または Windows 98 を実行している場合は、winnt /ox と入力して **Enter** キーを押します。
5. ソース・ファイルのパスを示す Windows NT セットアップ・ウィンドウが表示されたら、**Enter** キーを押します。
6. プロンプトで指示されたら、ドライブ A にディスクを挿入して、**Enter** キーを押します。

注: 最初に *Windows NT Workstation Setup Disk #3*、次に *...Disk #2* が作成されて、最後に番号のない *...Disk* が作成されます。

7. 画面の指示に従って、ディスクを取り出して挿入します。画面に表示されたとおりにディスクにラベルを付けてください (ステップ 6 (8ページ) の注を参照)。

デスクトップ・アプリケーションに慣れる

本製品には、Windows NT 標準のアイコンの他にデスクトップ上に、IBM がユーザーの便利のために追加した Windows NT アプリケーションが付属しています。これらのプログラムについて次に説明します。

- Service Pack 4。Microsoft が Windows NT ユーザーに提供している Windows NT の更新ファイルです。Service Pack 4 は、IBM によってハード・ディスクに導入されています。

Service Pack 4 の導入に影響せずにデバイス・ドライバを導入するには、ドライブ C の I386 ディレクトリーからデバイス・ドライバを導入する必要があります。ドライブ C の I386 ディレクトリー以外のディレクトリーやデバイスからデバイス・ドライバを導入すると、Service Pack 4 を再導入しなければならなくなります。

Service Pack 4 を再導入するには、デスクトップの「**Service Pack 4**」アイコンをダブルクリックし、画面の指示に従います。

- Internet Explorer 4.0 SP1a。Internet Explorer の最新バージョン (99 年 1 月現在) です。Internet Explorer は、会社のイントラネットや WWW にある情報を簡単にナビゲートして検索できるツールです。

注: 会社のイントラネット、または WWW (あるいはその両方) に接続されていないければ、Internet Explorer は使用できません。インターネットへの接続、および Internet Explorer のツールの詳細については、本製品に付属の Windows NT のマニュアルを参照してください。

「ネットワーク設定」アイコンは、ネットワーク・セットアップ・ウィザードを起動するための近道です。Windows NT のネットワーク接続の設定を始めるには、「ネットワーク設定」アイコンをクリックします。画面は Windows NT のネットワーク接続を導入するかどうかを聞いてきます。設定の手順を継続するには、「は

い」のボタンをクリックします。すると、ネットワーク・セットアップ・ウィザードが起動します。ネットワーク・セットアップ・ウィザードについては、Windows NT のマニュアルをご覧ください。

本製品のデスクトップ画面には、IBM ウェルカム・センター・プログラムもあります。このプログラムの詳細については、『IBM ウェルカム・センターの使用』を参照してください。

IBM ウェルカム・センターの使用

IBM ウェルカム・センターは、以下のことを行うための中心となる場所です。

- ハード・ディスク・パーティションを設定する
- ハード・ディスクにある、以下のすぐに導入できるソフトウェアを導入する
 - Norton AntiVirus for IBM
 - ConfigSafe
 - IBM System Management Tools 又は IBM Universal Management Agent
- 次のようなセットアップ作業を実行する
 - 時刻と日付の設定
 - プリンターの設定
 - 使用環境を快適にするための情報の表示
- 次のようなオンライン・ブックを表示する
 - *IBM IntelliStation 解説書*
 - *Netfinity ユーザーズ・ガイド*
- サポート CD を始動して、追加ソフトウェア (3ページの『すぐに導入できるソフトウェア』にリストされているものなど) を導入する
- WWW の IBM Web ページ (IBM 製品とテクニカル・サポートについての情報がある) にアクセスする (本製品が WWW に接続されている場合)。本製品が WWW に接続されていない場合は、ハード・ディスクにある抜粋された Web ページにリンクできます。

IBM ウェルカム・センターへのアクセス

IBM ウェルカム・センターにアクセスする手順は、次のとおりです。

1. 「Windows NT へようこそ」ウィンドウが開いていたら、閉じます。
2. 「**IBM** ウェルカム・センター」アイコンをダブルクリックします。
IBM ウェルカム・センターが表示されます。
3. IBM ウェルカム・センターを使用して操作を実行したり情報を入手したりする一般的な手順は、次のとおりです。
 - a. メイン・ウィンドウの左側にリストされている、以下のカテゴリのいずれかをクリックします。

ようこそ
始めに
オンライン・ライブラリー
システムのカスタマイズ
IBM サービスのご案内

メイン・ウィンドウに、カテゴリ別の情報が表示されます。

- b. メイン・ウィンドウでは、スクロールして選択可能なトピックをクリックできます。(選択可能なトピックは強調表示され、下線が引かれています。)画面に指示が表示されたときは、その指示に従います。

この章の残りの部分では、IBM ウェルカム・センターからそれぞれの操作を実行する方法について説明します。

注: IBM ウェルカム・センターの上部にある Microsoft Internet Explorer ツールバーの使用方法については、Windows NT のマニュアルまたはオンライン・ヘルプを参照してください。

ソフトウェア導入プログラムの使用方法

ハード・ディスクに導入済みのソフトウェア導入 (サポート) ユーティリティ・プログラムを使用して、以下のことを実行できます。

- Norton AntiVirus for IBM、ConfigSafe、および IBM System Management Tools または IBM Universal Management Agent を導入する

- ハード・ディスクからサポート・ユーティリティを削除する
- Norton AntiVirus for IBM、ConfigSafe、および IBM System Management Tools または IBM Universal Management Agent について情報を表示する

注: サポート・ユーティリティは、サポート CD 上で使用することもできます。サポート CD の使用方法については、29ページの第5章、『サポート CD の使用方法』を参照してください。

初期導入済みのユーティリティ・プログラムを使用するには、次の手順を実行します。

1. 「Windows NT へようこそ」ウィンドウが開いていたら、閉じます。
2. 「IBM ウェルカム・センター」アイコンをダブルクリックします。
3. 「IBM ウェルカム・センター」ウィンドウで、「始めに」をクリックします。
4. スクロールして、「アプリケーションの導入」セクションの「アプリケーション導入プログラムの起動」をクリックします。
5. サポート・ユーティリティのメニューが表示されたら、次のうち該当するボタンをクリックします。
 - a. 「アプリケーションの導入」は、Norton AntiVirus for IBM、ConfigSafe、および IBM System Management Tools または IBM Universal Management Agent を導入します。
これらのアプリケーションの詳細については、15ページの第3章、『追加のソフトウェア』を参照してください。
 - b. 「ハードディスクからこのユーティリティ・プログラムを削除」は、ハード・ディスクからサポート・プログラムを削除します。
 - c. 「内容の説明」は、Norton AntiVirus for IBM、ConfigSafe、および IBM System Management Tools または IBM Universal Management Agent についての情報を表示します。
6. 操作を完了するには、該当する項目を選択して画面の指示に従います。

オンライン・ブックの表示

IBM ウェルカム・センターから、「*IBM IntelliStation 解説書*」などのオンライン・ブックにアクセスできます。オンライン・ブックを見るには、以下のことを行います。

1. 「スタート」をクリックします。
2. 「プログラム (P)」を選択します。
3. 「オンラインブックス」をクリックし、スクロールして読みたいオンライン・ブックの名前をクリックします。

コンピューターの終了

保管していないデータを失ったり、プログラムを損傷したりすることを防ぐために、コンピューターの電源を切る前には必ず終了手順を行ってください。

コンピューターを終了するには、以下のことを行います。

1. 作業中のデータをすべて保管します。
2. 開いているアプリケーションをすべて終了します。
3. Windows の「スタート」ボタンをクリックします。
4. 「シャットダウン (U)」をクリックし、「コンピュータをシャット・ダウンする (S)」を選択し、「はい」をクリックします。

または

1. 作業中のデータをすべて保管します。
2. 開いているアプリケーションをすべて終了します。
3. **Ctrl+Alt+Delete** キーを押して、「Windows NT のセキュリティ」メニューを表示します。
4. 「シャットダウン (S)」をクリックし、「シャットダウン (S)」を選択し、「OK」をクリックします。

ここでは、Norton AntiVirus for IBM、ConfigSafe、IBM System Management Tools および IBM Universal Management Agent の各ソフトウェアについて説明します。

サポート CD には、その他のソフトウェアが入っています。詳細については、29ページの第5章、『サポート CD の使用方法』を参照してください。診断ソフトウェアについては、31ページの第6章、『診断プログラムの使用方法』を参照してください。

Norton AntiVirus for IBM

Norton AntiVirus for IBM は、コンピューターからウィルスを検出して除去する総合的なウィルス対策プログラムです。Norton AntiVirus for IBM を導入する手順は、次のとおりです。

1. IBM ウェルカム・センターを起動し、「始めに」をクリックします。
2. 画面をスクロールし、「アプリケーションの導入」ボタンをクリックします。「導入選択」ウィンドウで、「Norton AntiVirus for IBM」をクリックして強調表示します。
3. 「追加」ボタンをクリックしてソフトウェア名を右側のパネルに移動させて、「導入」ボタンをクリックします。

このプログラムを導入した後に、現在の設定を変更または表示したい場合は、次の手順を実行します。

1. Windows の「スタート」ボタンをクリックします。
2. 「プログラム」、「Norton AntiVirus」の順に選択し、「Norton AntiVirus」をクリックします。
3. 「Norton AntiVirus NT」ウィンドウで、「オプション」をクリックします。
4. 設定値を確認し、必要なら変更します。変更を保管するため、変更を行った各ウィンドウに於て、「OK」をクリックします。
5. Norton AntiVirus のメインのウィンドウに戻って「スケジューラー」をクリックします。もし Norton AntiVirus の設定を変更したい場合は、設定を変更したいウィンドウをダブルクリックし、変更後「OK」をクリックします。

6. 新しいウィンドウが表示されます。設定の変更を保存するウィンドウで「OK」をクリックします。

サポート資料はオンラインで提供されています。この資料にアクセスするには、Windows の「スタート」ボタンをクリックして、「プログラム」、「Norton AntiVirus」、「Norton AntiVirus Guide」の順にクリックします。

ConfigSafe

ConfigSafe は、Windows NT 用の構成追跡と回復のための総合的なツールです。このプログラムは、デスクトップが損傷したり、使用不能になったりした場合に、ユーザー（またはサポート担当者）がシステムを簡単に復元できるようにする機能を備えています。

ConfigSafe プログラムには、次のような特長があります。

- メニュー方式のグラフィカル・インターフェース。
- システム構成情報を定期的なスケジュールで自動的に取り込んで保管する、スナップショット機能。取り込まれて保管される情報には、システム・ファイル、ハードウェア構成、ファイル・バージョン、ネットワーク接続、レジストリー情報などがあります。
- 構成復元機能。この機能により、ほんの数秒間で、システムを直前の（または出荷時の）構成に復元することができます。
- 最後に復元したシステム設定を、もう一度復元前のシステム設定に戻す「やり直し」機能。
- 基本システム構成に対して（故意にまたは無意識で）行われた変更の自動記録。
- システム構成の変更内容についてレポートを生成（および表示または印刷）できる、レポート機能。このレポートで、前の週の間や、工場導入時の構成からの変更内容のリストなど、重要な情報を得ることができます。これらのレポートは、システムの問題判別の役に立ち、またサポート担当者に問題解決を依頼する際のレポートとしても活用できます。
- リモート・アシスタンスを得るための、他のプログラムとの併用機能。

- 構成情報のバックアップやデータ収集といった、時間のかかる作業の自動実行。
- ハードウェアやソフトウェアを変更する前に、現在の設定値を取り込む方法が簡単 (ポイントしてクリック)。この方式により、変更した際に問題が発生した場合に迅速に復元することができます。
- 特定のニーズを満たすために、機能をカスタマイズすることが可能。

ConfigSafe は、特に新しいアプリケーションやアダプターを導入した後に問題が発生した場合に役立つ問題判別ツールです。システム構成を変更する前に、ConfigSafe を使用して現在の作業環境のスナップショットを取ってください。こうすれば、構成ファイルの変更によってコンピューターが使用不能になった場合に、以前の構成に簡単に戻すことができます。

ユーザー自身で問題を解決することができず、システム管理者からの援助が必要になった場合は、PC HelpCenter に電話する前に、ConfigSafe を使用して構成の最近の変更についてのレポートを生成してください。IBM テクニカル・サポート担当者は、このレポートに記載された情報を使って、ユーザーが問題を解決できるよう援助します。

ConfigSafe プログラムを導入する手順は、次のとおりです。

1. 11ページの『ソフトウェア導入プログラムの使用方法』のステップ 1 (12ページ) ~ 4 (12ページ) に従います。
2. ステップ 5 まで進んだら、「アプリケーションの導入」ボタンをクリックします。「導入選択」ウィンドウで、「**ConfigSafe**」をクリックして強調表示します。
3. 「追加」ボタンをクリックしてソフトウェア名を右側のパネルに移動させて、「導入」ボタンをクリックします。

導入が終わってからプログラムにアクセスする手順は、次のとおりです。

1. Windows の「スタート」ボタンをクリックします。
2. 「プログラム」、「**ConfigSafe**」の順に選択し、「**CONFIGSAFE**」をクリックします。

IBM System Management Tools

本製品には、IBM System Management Tools または IBM Universal Management Agent のいずれか一方が含まれています。

IBM System Management Tools は、次の構成要素からなります。

- Desktop Management Interface (DMI) Service Provider 2.0
- Desktop Management (DM) BIOS 2.0 Instrumentation
- IBM PC System Monitor Instrumentation
- IBM AssetCare
- IBM Alert on LAN
- IBM SMART Reaction Client
- Intel® LANDesk® Client Manager 3.1

IBM System Management Tools を導入すると、構成要素がすべて導入されますが、Intel LANDesk Client Manager と IBM SMART Reaction Client はオプションで、導入することもしないこともできます。

注: IBM Alert on LAN は、ハードウェア・サポートを必要とします。このサポートは、一部のコンピューター・モデルだけに装備されています。

IBM System Management Tools の構成要素

IBM System Management Tools のそれぞれの構成要素について、次に説明します。

DMI Service Provider 2.0 は、デスクトップ・コンピューターのソフトウェア製品とハードウェア製品から情報を収集して管理します。これらの製品は、スタンドアロンでもネットワークにリンクされていても管理できます。DMI に適合するそれぞれの構成要素の情報は、DMI Service Provider に登録されて、管理情報形式 (MIF) データベースに格納されます。DMI Service Provider は、管理アプリケーション (Intel LANDesk Client Manager など) からの要求やさまざまなコマンドを処理して、必要に応じて要求された情報を MIF データベースから検索したり、DMI に適合する製品に要求を渡したりします。DMI ブラウザーのヘルプ・システムに、サポート資料が組み込まれています。

DM BIOS 2.0 Instrumentation は、コンピューターが作動しているときにはアクセスするのが難しいハードウェア情報を収集します。DM BIOS Instrumentation は、コンピューターの BIOS から情報を収集して、この情報を DMI ブラウザーで表示できるようにします。報告されるハードウェア情報には、メモリー構成、キャッシュ・サイズ、USB サポート、製品番号、システムのシリアル番号、BIOS のバージョン、プロセッサ情報、システム・スロット情報などがあります。

IBM PC System Monitor Instrumentation は、システム・ボードの温度、システムの電圧、およびファンの回転速度を監視します。また、コンピューターのカバーが取り外されたことも検出します。データは DMI Service Provider にレポートされ、DMI ブラウザーまたは DMI に適合するシステム管理ソフトウェアを使用してデータにアクセスできます。IBM Netfinity Services や Intel LANDesk Client Manager などのシステム管理ソフトウェアを使用すれば、問題が発生した場合にユーザーやシステム管理者にアラートを送るようにすることができます。

IBM AssetCare は、コンピューターの拡張資産情報域のデータを構成および検索するアプリケーションです。拡張資産情報域は、構成要素の追跡機能と盗難検出機能を備えた EEPROM です。IBM AssetCare を使用すれば、主なシステム構成要素のシリアル番号のほかに、リース、保証、ユーザー、およびシステムに関する情報を追跡できます。また、IBM AssetCare と DMI に適合するネットワーク管理ソフトウェアを併用すると、個別設定データのフィールドを作成して、カスタマイズ情報を格納することができます。IBM Asset Care は、構成変更を検出すると DMI に適合したアラートを発行します。

IBM Alert on LAN は、一部のコンピューター・モデルに装備されている Alert on LAN ハードウェアを構成および監視します。IBM Alert on LAN を使用すると、自己診断テスト (POST) の障害、オペレーティング・システムの問題、環境に関する問題 (システムの温度が高い、システムの電圧が安定しないなど)、およびセキュリティーの侵害 (シャシーへの侵入など) について、LAN 管理者に知らせるようにすることができます。Wake on LAN と同様に、IBM Alert on LAN はコンピューターの電源スイッチがオフになっているときにも動作できます。管理者は、IBM Netfinity Manager 5.2 や Intel LANDesk Client Manager Administrator 3.3 などのシステム管理ソフトウェアを使用して IBM Alert on LAN を監視でき

ます。IBM Alert on LAN の詳細については、WWW の <http://www.pc.ibm.com/us/desktop/alertonlan> または、<http://www.ibm.co.jp/pc/desktop/al> をご覧ください。

IBM SMART Reaction Client は、SMART (Self-Monitoring, Analysis, and Reporting Technology: 自己監視、分析、報告テクノロジー) ハード・ディスク・ドライブを装備したコンピューターのデータを保護するためのプログラムです。SMART は、ハード・ディスク・ドライブの状況を監視し、ドライブ内に潜在的な障害がある場合は、事前障害分析機能 (PFA) アラートを生成します。IBM SMART Reaction Client は、このアラートを代行受信して、役に立つ応答に変換します (クライアント・ワークステーションの画面にメッセージを表示したり、特定のワークステーションに潜在的なハード・ディスク障害があることを示すアラートを関係するワークステーションに出すなど)。IBM SMART Reaction Client には、豊富な機能を備えたバックアップ/復元プログラムと、ミラーリング・プログラムがあります。ミラーリング・プログラムを使用すると、最大 64 個のフォルダーの内容を動的に "ミラーリング" することができます。ソース・ファイルが更新・保管されると、同じデータを格納するようにミラー・ファイルが自動的に更新されます。IBM SMART Reaction Client には、バックアップ、復元、およびミラーリングの操作をスケジューリングするためのスケジューラーも組み込まれています。少なくとも 1 つのネットワーク・コンピューターに IBM SMART Reaction Manager を導入して実行しなければ、クライアント・ワークステーションに IBM SMART Reaction Client を導入することはできません。IBM SMART Reaction Manager、および IBM SMART Reaction プログラム (Client および Manager) に関する詳細な資料は、WWW の <http://www.ibm.co.jp/pc/desktop/sr/> で入手できます。

Intel LANDesk Client Manager 3.1 は、IBM System Management Tools の構成要素すべてにアクセスするためのグラフィカル・ユーザー・インターフェースを提供するアプリケーションです。また、LANDesk Client Manager には、PC ヘルス・メーターなどの診断ツールと、潜在的な問題についてアラートを出すメカニズムも備わっています。このアプリケーションは、自動的にメモリーなどのハードウェアをポーリングして潜在的な障害状況を検出し、変更内容の管理と復元のために定期的に重要な構成ファイルのスナップショットを取ります。LANDesk Client Manager を使用するとユーザーが自分のコンピューターを管理でき、また Intel LANDesk Client

Manager Administrator と併用すれば、ネットワーク管理者がコンピューターをリモート管理できます。

IBM System Management Tools の導入

IBM System Management Tools パッケージを導入する手順は、次のとおりです。

1. 11ページの『ソフトウェア導入プログラムの使用方法』のステップ 1 ~ 4 に従います。
2. ステップ 5 まで進んだら、「アプリケーションの導入」ボタンをクリックします。「導入選択」ウィンドウで、「**IBM System Management Tools**」をクリックして強調表示します。
3. 「追加」ボタンをクリックしてソフトウェア名を右側のパネルに移動させて、「導入」ボタンをクリックします。

導入が終わってから IBM System Management Tools にアクセスする手順は、次のとおりです。

1. Windows の「スタート」ボタンをクリックします。
2. 「プログラム」、「**IBM System Management Tools**」の順に選択し、希望の選択項目をクリックします。

オンライン・ヘルプにアクセスするには、Windows の「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「**IBM System Management Tools**」の順にクリックします。画面の右側のプルダウン・メニューには、DMI と MIF ブラウザーのメニュー項目に組み込まれているサポート資料があります。

IBM Universal Management Agent

本製品には、IBM System Management Tools または、IBM Universal Management Agent のいずれか一方が含まれています。

IBM Universal Management Agent は、次の構成要素からなります。

- システム監視
- リソース使用状況

- 先進管理ツール
- インベントリ・データ
- 構成と診断

IBM Universal Management Agent は、ネットワーク環境で、コンピュータを管理するために設計されたツールの集合です。IBM Universal Management ブラウザは、Internet または Intranet 環境の ActiveX コントロールを使って、各おのおののツールを起動したり、管理する中心となるインターフェースです。Universal Management Agent は、導入したコンピュータでローカルに使用することも可能ですし、Internet や Intranet を使用して、遠隔地から Universal Management Agent を導入したコンピュータを使用することもできます。

IBM Universal Management Agent Components

IBM Universal Management Agent の各々の構成要素について、次に説明します。この中のいくつかの機能はハードウェアに依存することがあり、モデルによってサポートされていない場合があります。

システム監視には、イベント、アラームとレスポンス、PC ヘルス、BIOS エラー・ログ、イベント・ログ・ビューアが含まれています。これによって、ハードウェアの状態、システム・アラートに対する自動レスポンスの設定、イベント（例えば、バックアップ操作）のスケジューリング、そしてエラーやアラートやイベントの過去の履歴を見ることができます。

リソース使用状況は、オーディオ、ドライブ、入出力ポート、メモリー、ネットワーク、システム・リソース、ビデオ、バッテリー（ノート PC の場合のみ）、キーボードそしてマウスの情報を集めます。

先進管理ツールは、DMI 情報へのアクセス、Alert on LAN 情報を提供します。

インベントリ・データには、基本ハードウェア、コンピューター概要レポート、ソフトウェア・インベントリ、オペレーティング・システムや関連したデバイス・ドライバの情報、そして、AssetCare に関する情報など、閲覧可能な情報を含んでいます。

構成と診断 は、メモリー・スクラビングプログラム（潜在的に持っている ECC エラーを修正する）、そして、ユーザーマネージャ（Universal Management Agent プログラムと連動したセキュリティー機能を構成するのに、使用する）を含んでいます。

UMAプログラムには IBM Netfinity マネージャーのようなサーバーベースの管理プログラムや Tivoli TME10、Tivoli NetView、Microsoft System Management Server (SMS)、および Microsoft Management Console (MMC) のようなエンタープライズ管理システムも統合することができます。さらに、UMA プログラムを構成して、シンプル・ネットワーク管理プロトコル (SNMP) のトラップを Microsoft SMS、Tivoli NetView、および Computer Associates Unicenter などのワークグループや企業レベルのネットワーク管理アプリケーションに転送することもできます。

Universal Management Agent の導入に関しては、オンラインブックの *Universal Management Agent 1.0 導入ガイド* に書かれています。オンラインブックの表示の仕方は、13ページの『オンライン・ブックの表示』を参考してください。

UMA の詳細、または、最新情報に関しては、下記の WEB サイトを参照してください。

<http://www.ibm.co.jp/pc/desktop/uma/>

IBM Universal Management Agent Plus

Universal Management Agent Plus (UMA Plus) は、UMA プログラムの機能を拡張するプラグイン・プログラムでサポート CD より導入します。UMA Plus を導入する前に UMA プログラムを導入しておく必要があります。UMA Plus は、UMA セットアップに以下のプラグインを追加します。

SMART Reaction Client は全機能のバックアップ、復元、およびミラーリング・プログラムです。このプログラムを使用して、日常のスケジュールされたバックアップおよびミラーリング操作を実行するか、SMART ハード・ディスクからの Predictive Failure Analysis アラートによって起動される緊急バックアップまたはミラーリング操作を実行することができます。この SMART Reaction Client を正常に動作させるためには、SMART Reaction Manager を導入していることが必要です。

EZ Admin は、オペレーティング・システムの機能を隠すか、使用不可にするか、あるいは特定のプログラムへのユーザーのアクセスを制限することによって、ユーザーが引き起こす問題に関連する管理コストを削減します。

PC - Doctor for UMA は、主なコンピューター構成要素に対する診断テストを実行するのに使用することができる診断ツールです。PC-Doctor for UMA により、診断テストをインターネットまたはイントラネットを通じてローカルまたはリモートで実行することができます。

Universal Management Agent Plus の導入に関しては、オンライン・ブックの *Universal Management Agent Plus 導入ガイド* に書かれています。オンライン・ブックの表示の仕方は、13ページの『オンライン・ブックの表示』を参考してください。

UMA Plus の詳細、または、最新情報に関しては、下記の WEB サイトを参照してください。

<http://www.ibm.co.jp/pc/desktop/umaplus/>

第4章 Windows NT の再導入

問題が発生して、本製品に付属の Windows NT の再導入が必要になった場合は、この章の情報を使用してください。

本製品には、Windows NT ワークステーション 4.0 CD または、プロダクト・リカバリー CD のいずれか一方が同梱されています。プロダクト・リカバリー CD が同梱されている場合は、26ページの『プロダクト・リカバリー CD の使用法』を参照します。一方、Windows NT ワークステーション 4.0 CD の場合は、このまま進みます。

Windows NT CD の使用法

注意

Windows NT CD に入っているソフトウェアは、Windows NT Workstation 4.0 が初期導入されて付属している IBM コンピューター上の Windows NT Workstation 4.0 を再導入するためにのみ使用するものです。

ハード・ディスクの障害などによって Windows NT のファイルが損傷した場合に Windows NT を再導入できるように、本製品には Windows NT CD が付属しています。この CD は、Windows NT CD から作成した Windows NT Setup Boot Disk とともに使用する必要があります。(7ページの『Windows NT Setup Boot Disk の作成』を参照してください。)

問題が発生して、Windows NT を再導入する必要がある場合は、次の手順に従います。

1. Windows NT を導入します。ドライブ A に Windows NT Setup Boot Disk (8 ページの手順を使用して作成) の 1 枚目を挿入し、CD-ROM ドライブに Windows NT CD を挿入します。コンピューターの電源を入れるか、コンピューターを再始動して、画面の指示に従います。
2. 次の更新を導入します。
 - Windows NT Workstation 4.0 Service Pack 4 以上
 - Internet Explorer 4.0 SP1a 以上

これらの更新バージョンは、WWW の <http://www.pc.ibm.com/us/news/msinfo.html> で入手できます。この Web アドレスにアクセスするには、Windows NT Internet Explorer の「お気に入り」の選択項目から「**Microsoft Support Information**」を選択するのが便利です。

Windows NT を再導入したら、サポート CD を使用して、必要に応じてアプリケーションとデバイス・ドライバを導入できます。詳細については、29ページの第5章、『サポート CD の使用方法』、およびサポート CD に入っている CD の概要を参照してください。Windows NT 4.0 の再導入手順について、より詳細な情報が必要な場合は、付録A を参照してください。再導入手順がステップごとに詳細に記載されています。

プロダクト・リカバリー CD の使用法

本製品には、Windows NT ワークステーション 4.0 CD、または、プロダクト・リカバリー CDのいずれか一方が同梱されています。以下の情報は、プロダクト・リカバリー CD が同梱されている場合に使用します。

プロダクト・リカバリー CD は、ハードディスクの故障や、Windows NT ファイルがダメージを受けた場合に、Windows NT や 初期導入されたアプリケーション・ソフトウェア、または、デバイス・ドライバを再導入できるよう、システムに同梱されています。

プロダクト・リカバリー CD には msextra と呼ばれる追加された Windows NT 4.0 のディレクトリーを含んでいます。このディレクトリーには、Microsoft が提供するアプリケーションの更新が含まれています。なお、最新のこれらのファイルの更新については、Microsoft の WEB サイトでなされている場合もあります。

プロダクト・リカバリー CD には、Windows 98 を開始する CD イメージが含まれており、これにより CD からハードディスクにコピーがなされます。最初 CD は Windows 98 DOS を起動しますが、このソフトウェアが Windows NT Workstation 4.0 を導入します。

本製品は工場出荷時に、プライマリーパーティションが FAT16 に設定されています。このプロダクト・リカバリー CD は、プライマリーパーティションが FAT16 に設定されていないと正常に動作しません。もし FAT16 に設

定されていない場合は、正しくないパーティションというメッセージが表示されるので、FDISK コマンドを使って再度パーティションを設定する必要があります。

プロダクト・リカバリー CD より FDISK コマンドを起動する方法は、プロダクト・リカバリー CD を CD-ROM ドライブに挿入し、コマンド・プロンプトより FDISK とタイプします。プライマリーパーティションを削除し、プロダクト・リカバリー CD を CD-ROM ドライブに挿入したまま、再起動します。プロダクト・リカバリー CD が正常にパーティションを設定します。

次のステップに従い、工場出荷時の状態に戻します。

1. 構成ファイルや御自身で作成したファイルのバックアップ・コピーを取ります。バックアップを取らないファイルは全て失われてしまいます。
2. プロダクト・リカバリー CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
3. コンピュータを再起動し、画面の指示に従います。もし、CD よりシステムが始動しない場合は、Startup Sequence を変更する必要があります。（『Startup Sequence の変更』を参照します）
4. リカバリーが完了したならば、プロダクト・リカバリー CD を取り除き、コンピューターを再起動します。
5. もし、Startup Sequence を変更した場合は、忘れないうちに、元に戻してください。

Startup Sequence の変更

もし、プロダクト・リカバリー CD が CD より始動しなかった場合は、Configuration/ Setup Utility program にて Startup Sequence を変更する必要があります。次のステップにて、Startup Sequence を変更します。

1. コンピューターを再起動します。
2. Configuration/Setup Utility Program のプロンプトが表示されたら、F1 キーを押します。（Configuration/Setup Utility Program のプロンプトが表示される時間はほんの数秒です。F1 キーをすばやく押ししてください）

3. Configuration/Setup Utility Program のメニューから、Start Options を選択します。
4. Start Options のメニューから、Startup Sequence を選択します。
5. 画面に表示された Startup Sequence をメモします。この情報はハードディスクのリカバリーが完了後、元の Startup Sequence に戻すときに必要となります。
6. First Startup Device を CD-ROM に変更します。
7. Configuration/Setup Utility Program メニューに戻るまで、Esc キーを押します。
8. Configuration/Setup Utility Program を終了する前に、メニューより、Save Settings を選択し、Enter を押します。
9. Configuration/Setup Utility Program を終了するために、Esc キーを押し、画面の指示に従います。

注: プロダクト・リカバリー CD の使用が完了したあとは、Startup Sequence を元の設定値に戻すことを忘れないでください。

第5章 サポート CD の使用方法

サポート CD からデバイス・ドライバやその他のソフトウェアを導入または再導入する場合は、この章の情報を使用してください。

CD の機能

サポート CD には、各種のオペレーティング・システム環境用のデバイス・ドライバ、診断プログラム、およびその他のサポート・ソフトウェアが含まれています。

重要

サポート CD には、オペレーティング・システムは含まれていません。この CD は、お使いのオペレーティング・システムが本製品にすでに導入されていない場合は使用できません。

本 CD を使用して、以下のことが実行できます。

- CD から一部のアプリケーションを直接導入する。
- サポート CD にあるソフトウェア製品のローカル・エリア・ネットワーク (LAN) イメージを作成し、LAN ディスクから製品を導入する。
- CD から導入できないソフトウェア製品のディスクセットを作成して、ディスクセットから製品を導入する。

CD にあるユーティリティー・プログラムには、使いやすいグラフィカル・インターフェースと、ほとんどの製品の自動導入手順が備わっています。またユーティリティー・プログラムには、ヘルプ・システムと、ユーティリティー・プログラムの機能、CD から導入できるソフトウェア製品、およびそれらの製品がサポートする操作環境について説明している総合的な概要も用意されています。

サポート CD に入っている製品は、「IBM プログラムのご使用条件」の条件でライセンスを受けています。本書の付録A のライセンス情報は、本製品に初期導入済みのソフトウェアに対するものです。

CD の始動

サポート CD を使用する手順は、次のとおりです。

1. CD-ROM ドライブに サポート CD を挿入します。
2. CD を始動します。Windows NT Workstation 4.0 のデスクトップで、「IBM ウェルカム・センター」をダブルクリックし、「システムのカスタマイズ」をクリックして、「サポート CD の起動」をクリックします。

または

お使いのオペレーティング・システムに応じて、下記の手順で CD を開始します。

- Windows NT Workstation 4.0 の場合: Windows の「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックして、次のとおり入力します。

e:¥ibmsetup

ただし e: は CD-ROM のドライブ名です。**Enter** を押します。

3. メイン・メニューが表示されたら、希望のオプションを選択して、その後は画面の指示に従います。

プログラムの導入が終わったら、Windows の「スタート」メニューの「プログラム」の選択項目からプログラムにアクセスできます。ほとんどのプログラムでは、サポート資料がオンライン・ヘルプに組み込まれています。また、オンライン資料が提供されているものもあります。

IBM では、ハードウェア問題および一部のソフトウェア問題を診断するのに使用できる診断プログラムを提供しています。コンピューターについての情報を提供するユーティリティー・プログラムもいくつか含まれています。

注: 問題判別表や、自己診断テスト (POST) のエラー・メッセージや推奨処置などの、診断に関する追加情報は、*ユーザーズ・ガイド* で提供されています。

IntelliStation Diagnostics Diskette

IntelliStation Diagnostics Diskette のディスクット・イメージが、サポート CD に収録されています。この診断プログラムはオペレーティング・システムからは独立して実行されます。診断を実行するためのユーザー・インターフェースおよびユーティリティーが、Watergate Software 社の PC-Doctor によって提供されています。

このプログラムを使い、コンピューターのハードウェア (および一部のソフトウェア) 構成要素をテストすることができます。このテスト方法は通常、他のテスト方法を利用できない場合、またはハードウェアに関連していると思われる問題を特定できなかった場合に使用します。

本セクションには以下に関する説明が含まれています。

- サポート CD から *IntelliStation Diagnostics Diskette* ディスクットを作成する方法
- このディスクットからのプログラムの始動方法

IntelliStation Diagnostics Diskette ディスクットは以下のようにして作成します。

1. サポート CD を始動します。(30ページの『CD の始動』を参照してください。)
2. 「ディスクット・ファクトリーの実行」を選択します。
3. 「IntelliStation Diagnostics Diskette」を選択し、「作成」ボタンをクリックします。
4. プロンプトが表示されたら「はい」をクリックします。

5. フォーマット済の 2MB ディスケットをディスク・ドライブに挿入し、**Enter** を押します。
6. プロセスが完了したら、ディスクを取り出してラベルを貼ります。

IntelliStation Diagnostics Disketteプログラムは以下のようにして開始します。

1. Windows NT を終了して、コンピューターの電源を切ります。(手順は、13ページの『コンピューターの終了』を参照してください。)
2. 接続されているすべての装置の電源を切ります。
3. *IntelliStation Diagnostics Diskette* ディスケットをドライブ A に挿入します。
4. 接続されているすべての装置の電源を入れます。その後で、本体の電源を入れます。
5. 画面に現れる指示に従います。ヘルプを表示するには F1 を押します。

IntelliStation Supplemental Diskette

IntelliStation Supplemental Diskette のディスク・イメージが、サポート CD に収録されています。この診断プログラムはオペレーティング・システムからは独立して実行されます。

このプログラムを使い、Intergraph Intense 3D グラフィックス・アダプターをテストすることができます。

本セクションには以下に関する説明が含まれています。

- サポート CD から *IntelliStation Supplemental Diskette* ディスケットを作成する方法
- このディスクからのプログラムの始動方法

IntelliStation Supplemental Diskette ディスケットは以下のようにして作成します。

1. サポート CD を始動します。(30ページの『CD の始動』を参照してください。)

2. 「ディスクレット・ファクトリーの実行」を選択します。
3. 「IntelliStation Supplemental Diskette」を選択し、「作成」ボタンをクリックします。
4. プロンプトが表示されたら「はい」をクリックします。
5. フォーマット済の 2MB ディスクレットをディスクレット・ドライブに挿入し、**Enter** を押します。
6. プロセスが完了したら、ディスクレットを取り出してラベルを貼ります。

IntelliStation Supplemental Disketteプログラムは以下のようにして開始します。

1. Windows NT を終了して、コンピューターの電源を切ります。(手順は、13ページの『コンピューターの終了』を参照してください。)
2. 接続されているすべての装置の電源を切ります。
3. *IntelliStation Supplemental Diskette* ディスクレットをドライブ A に挿入します。
4. 接続されているすべての装置の電源を入れます。その後で、本体の電源を入れます。
5. 画面に現れる指示に従います。ヘルプを表示するには F1 を押します。

付録A. Windows NT 4.0 の詳細導入手順

Windows NT 4.0 を Windows NT ワークステーション 4.0 CD とサポート CD を使って再導入する際の詳細手順が必要な場合は、以下の手順を参照してください。

なお、ネットワークは標準装備 (モデルによる) のイーサネットを使用する場合を記述しています。

A. Adaptec 7800 Family Manager Set (SCSI Drivers) 用ドライバー・ディスクットの作成

SCSI モデルの場合、まず、Adaptec 7800 Family Manager Set (SCSI Drivers) 用ドライバー・ディスクットの作成が必要となります。

必要なもの :

- サポート CD
- 未使用のディスクット 4 枚

(Adaptec 7800 Family Manager Set (SCSI Drivers) 用ドライバー・ディスクットに使用する)

問題なく動作している機種を使って、以下の手順でドライバー ディスクットを作成してください。

ステップ	操作内容
001.	CD-ROMドライブにサポート CD を挿入します。
002.	画面左下の「スタート」->「ファイル名を指定して実行(R)」をクリックします。
003.	d:\ibmsetup と入力し、Enter を押します。(ただし、d: は CD-ROM のドライブ名です。)
004.	「ディスクット・ファクトリーの実行」のアイコンをクリックします。
005.	「Adaptec 7800 Family (for M Pro/E Pro)」を選択します。

ステップ	操作内容
006.	「作成」のアイコンをクリックします。
007.	2MB(HD) の未使用のディスクを 4 枚用意し、「はい」をクリックします。
008.	ディスクをドライブに挿入し、Enter キーを押します。
009.	「はい」をクリックし、ディスクの内容が消去されることに同意します。
010.	書き込みが終了すると、ピッとピーブ音が鳴りますのでマウスを動かします。「ディスク作成中」のダイアログ・ボックスが表示されますので、ドライブからディスクを取り出し、指定されたラベルを付け、「OK」をクリックします。
011.	以下同様に、2 枚目、3 枚目、4 枚目のディスクを作成します。
012.	ディスクの作成が完了したら、「OK」をクリックします。

B. Windows NT 4.0 のインストール

必要なもの：

- Microsoft Windows NT Workstation Setup Disk 1,2,3
- Microsoft Windows NT Workstation CD-ROM Disc 1
- 修復ディスクに使用する、未使用のディスク 1 枚

重要: 既にハードディスクに必要なデータが入っている場合は、まず、そのファイルをディスク等に保存します。

ステップ	操作内容
013.	Setup Disk 1 を A ドライブに入れ、Power ON します。

ステップ 操作内容

014.

```
Please insert the disk labeled
Windows NT Workstation Setup Disk #2
into Drive A:
* Press ENTER when ready.
```

のメッセージが出たら、Setup Disk 1 を取り出し、代わりに Setup Disk 2 を A ドライブに入れ、Enter キーを押します。

注: 導入する前のハードディスクの状態により、Setup Disk 3 を A ドライブに入れるように、メッセージが出る場合もあります。その場合は、画面の指示に従ってください。

015.

「セットアップへようこそ」という、日本語で書かれた画面が表示されます。ここでは、

「Windows NT のセットアップを開始するには、Enter キーを押してください。」を選択し、Enter キーを押します。

016.

大容量記憶装置の検出を行うか否かの質問がされます。ここでは、「検出を行う」を選択し、Enter キーを押します。

017.

```
次のラベルの付いたディスクをドライブ A: に挿入してください。
Windows NT Workstation Setup Disk #3
```

というメッセージが表示されるので、Setup Disk 2 を取り出し、Setup Disk 3 を A ドライブに挿入し、Enter キーを押します。

ステップ	操作内容
------	------

018. 標準構成では、以下のメッセージが表示されます。

セットアップは、コンピュータに次の大容量記憶装置を検出しました。
IDE CD-ROM (ATAPI 1.2)/PCI IDE Controller

ここで、追加デバイスを追加する場合は、「S」キーを押します。一方、追加デバイスを追加しない場合は、Enter キーを押します。

IDE モデルは 019. にジャンプします。一方、SCSI モデルの場合は、ここで「S」キーを押し、以下の手順を進みます。

1. 「その他（ハードウェア メーカー提供のディスクが必要）」を選択し、Enter キーを押します。
2. Setup Disk 3 を取り出し、Adaptec 7800 Family Manager Set (SCSI Drivers) 用ドライバー・ディスクの一枚目を A ドライブに入れて、Enter キーを押します。
3. 下段の (NT 4.0) のドライバーを選択し、Enter キーを押します。
4. Enter キーを押します。
- 5.

次のラベルの付いたディスクをドライブ A: に挿入してください。
Windows NT Workstation Setup Disk #3

というメッセージが表示されるので、Adaptec 7800 Family Manager Set (SCSI Drivers)用ドライバー・ディスクの一枚目を取り出し、Setup Disk 3 を A ドライブに挿入し、Enter キーを押します。

ステップ 操作内容

ハードディスクの容量が、8.4GB を超えるシステムでは、以下のメッセージが表示されます。この場合は Enter キーを押します。

Windows NT Workstation セットアップ
続行するには、Enter キーを押してください。シリンダの数が 1024 を超える
ハードディスクが存在します。

一般的に、MS-DOS では、一台のハードディスクのシリンダ数は最大 1024 です
が、ハードディスク コントローラの中には、特別な構成オプションを用意し
て、大容量のハードディスク全体にアクセスできるようにしてあるものもあり
ます。このオプションは、セクタ変換モードと呼ばれます。ディスクのシリン
ダ数が 1024 を超えるときや、セクタ変換モードを使用できないときには、
MS-DOS では、ディスクの一部にアクセスできません。セクタ変換および大容量
ハードディスクに関しては、コンピュータまたはハードディスク コントローラ
のマニュアルを参照してください。

後で表示されるハードディスクに関する情報で、ディスクのサイズが小さすぎ
るときは、セットアップを終了し、CMOS ドライブ タイプの設定を調べる必要
があります。CMOS ドライブ タイプの設定の詳細については、コンピュータ
またはハードディスク コントローラのマニュアルを参照してください。

このメッセージは、必ずしもエラーを示すものではありません。ハードディス
クの中に、現在の構成よりも実際のサイズが大きいハード ディスクが存在
する可能性があります。

Enter = 続行

019.

次のラベルの付いたコンパクト ディスクを CD-ROM ドライブに挿入してください。

Windows NT Workstation CD-ROM

というメッセージが表示されると、Windows NT Workstation Disc 1
を CD-ROM ドライブに挿入し、Enter キーを押します。

020.

Windows NT ライセンス契約書が表示されるので、Page Down キー
を使用して読み、同意する場合は、F8 キーを押して先に進みます。

もし、ここでハードディスク内に Windows NT が見つかった場合は、

* アップグレードを行う。

* 新しいコピーをインストールする。

の二つの選択肢が表示されます。この場合は、

* 新しいコピーをインストールする。

を選択し、N キーを押します。

ステップ	操作内容
021.	<p>以下のメッセージが表示された場合は、ご使用のキーボードに相当するキーボードを選択します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>キーボードの種類を特定するために、以下のいずれかのキーを押してください。</p> <p>半角/全角キー : 106 日本語キーボードの場合 スペース・キー : 101 英語キーボードの場合 'S' キー : その他のキーボードの場合</p> </div>
022.	<p>キーボードの確認の画面が現れた場合 (y/n)は、確認の上、y をタイプします。</p>
023.	<p>NT がセットアップを行う上でハードウェアの構成の確認の画面が表示される場合、使用の構成と一致しているかを確認し、Enter キーを押します。</p> <p>表示の例</p> <p>「コンピュータには、次のハードウェアとソフトウェアがあります。</p> <p>コンピュータ : MPS Uniprocessor PC ディスプレイ : 自動検出 キーボード : 106 日本語キーボード キーボード・レイアウト : 日本語 (MS-IME97) ポインティング・デバイス : Microsoft マウスポートマウス (BallPoint を含む)</p> <p>変更なし : 上記の一覧は使用中のコンピュータと一致します。</p> <p>一覧の項目を変更したい場合は、上向き方向キーと下向き方向キーを使って変更する項目を選択し、Enter キーを押します。すると、その項目で選択できる内容が表示されます。</p> <p>一覧の項目がすべて正しい場合は、「上記の一覧は使用中のコンピュータと一致します。」を選択し、Enter キーを押します。」</p>
024.	<p>NT をインストールするパーティションを選択するように指示が表示されます。インストールするパーティションを選び (選択したパーティションは反転表示されます)、Enter キーを押します。</p>

ステップ	操作内容
025.	<p>ファイルシステム (FAT、NTFS) を選択するように指示がされるので、選択肢を反転表示にし、Enter キーを押します。</p> <p>ここでは、FAT を選択する場合を例にとり、</p> <p>「FAT ファイル システムを使用してパーティションをフォーマット」を選びます。</p> <p>*: 既に HDD に書かれているファイルの影響が出ないようにするためにパーティションをフォーマットすることをお勧めします。</p>
026.	<p>ドライブをフォーマットする趣旨のメッセージが表示されます。「F」キーを押して、ドライブのフォーマットを開始します。</p>
027.	<p>フォーマットが開始されます。フォーマットが終了すると、インストールするディレクトリー名を指定するように指示が表示されるので、ディレクトリー名を入力し(例えば、¥WINNT40 など)、Enter キーを押して続行します。</p>
028.	<div data-bbox="505 906 1185 1088" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>セットアップは、ハードディスクに壊れたデータがあるかどうか検査します。</p> <p>(中略)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハードディスクの詳細な二次検査を実行するには、Enter キーを押してください。 </div> <p>のメッセージが表示されます。</p> <p>ここでは、詳細な二次検査を実行することを選択し、</p> <p>SCSI モデルの場合は、Adaptec 7800 Family Manager Set 用ドライバー・ディスクの一枚目を A ドライブに入れて、Enter キーを押します。</p> <p>これより、CD-ROM からハードディスクへのコピー、及び、初期化が行われます。</p>

ステップ	操作内容
029.	<p>以下のメッセージが表示されます。メッセージの指示に従ってください。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>ここまでのセットアップは正常に終了しました。</p> <p>ドライブ A: にフロッピー ディスクが挿入されている場合は取り出してください。</p> <p>CD-ROM ドライブにコンパクト ディスクが挿入されている場合は、コンパクトディスクも取り出してください。</p> </div>
	<p>Enter キーを押してコンピュータを再起動してください。</p> <p>コンピュータが再起動すると、セットアップが続行されます。</p>
030.	<p>再起動のあと、以下のメッセージが表示されます。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>'Windows NT Workstation CD-ROM' のラベルの付いたコンパクトディスクを CD-ROM ドライブに挿入して「OK」をクリックしてください。</p> <p>(以下省略)</p> </div>
	<p>Windows NT Workstation Disk 1 を CD-ROM ドライブに挿入して「OK」をクリックします。</p>
031.	<p>Windows NT セットアップのスクリーンが現れます。画面の指示に従い [次へ] をクリックします。</p>
032.	<p>セットアップ方法を選択します。今回は標準を選び、[次へ] をクリックします。</p>
033.	<p>名前と組織名を入力し、[次へ] をクリックします。</p>
034.	<p>マニュアル「ファーストステップガイド Microsoft Windows NT Workstation」の表紙に書かれている Product ID を入力し、[次へ] をクリックします。</p>
035.	<p>コンピュータ名を入力し、[次へ] をクリックします。</p>
036.	<p>管理者アカウント用のパスワードを入力し、[次へ] をクリックします。</p>

ステップ	操作内容
037.	システム修復ディスクを作成する画面が表示されます。未使用のディスクを A ドライブに挿入し、「はい」を選び、[次へ]をクリックします。
038.	Windows NT コンポーネントの導入に関して、「標準導入」または「選択導入」を選択します。ここでは「標準導入」を選択し、[次へ]をクリックします。
039.	Windows NT ネットワークのインストール手順に進みます。[次へ]をクリックします。
040.	ネットワークに接続するか、しないかを指定します。ここでは、「ネットワークに参加する」場合を例にとり、[次へ]をクリックします。
041.	アダプタの検索を開始するため、「検索開始」のボタンをクリックします。
042.	検出されたアダプタ名が反転表示されたまま、[次へ]をクリックします。 *: イーサネットのドライバーは、後述の手順で、サポート CD から正しいドライバーを再導入します。
043.	ネットワークプロトコルを選択し、[次へ]をクリックします。
044.	[次へ]をクリックし、ネットワーク・コンポーネントの導入を開始します。
045.	プロトコルとして、TCP/IP を選んだ場合は、ネットワーク管理者等から指定されている TCP/IP のアドレス等を設定します。 *: BIOS の設定によっては、途中で「PCI 設定エラーの検出」が表示されることがあります。その場合は、「OK」を押してください。
046.	ワークグループ名を指定し、[次へ]をクリックします。
047.	「完了」のボタンをクリックします。
048.	「日付と時刻のプロパティ」の画面が表示されます。日付、時刻、タイムゾーンが正しくない場合は正しい値を入力してください。そして「閉じる」をクリックします。

ステップ	操作内容
049.	<p>検出されたディスプレイとして VGA互換ディスプレイ アダプタ (Intergraph モデルは Cirrus 互換ディスプレイ アダプタ) が検出された場合、一旦ここでは、「OK」をクリックした後、「キャンセル」をクリックしてこの画面を抜けます。</p> <p>*: ディスプレイ ドライバの導入は、別途後述の手順で行います。</p>
050.	<p>NT の導入が開始され、そののち、修復ディスクの書き込みが開始されるメッセージが表示されます。ドライブ A には既にディスクが入っていますから、「OK」をクリックします。</p>
051.	<p>NT 4.0 が正常にインストールされたことを示すメッセージが表示されたら、ディスクと CD-ROM をそれぞれドライブから取り出し、再起動のアイコンをクリックします。</p>
052.	<p>「Windows NT へようこそ」が表示されたら、「閉じる」をクリックします。</p>

C. ドライバーのインストール

注: IBM Fire GL1 グラフィックス・アダプター用のビデオのドライバーの導入は、Windows NT Service Pack 4 の導入後、
『E. IBM Fire GL1 グラフィックス・アダプター用ビデオのドライバーの導入』で行います。

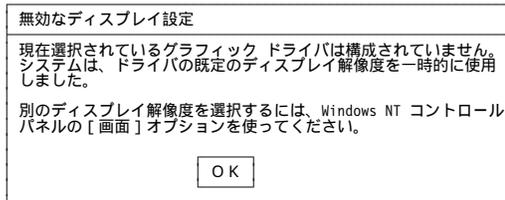
C - 1. ビデオのドライバーの導入 (Matrox Millennium G200 アダプターの場合)

必要なもの : サポート CD

ステップ	操作内容
053.	画面左下の「スタート」->「ファイル名を指定して実行 (R)」をクリックします。
054.	CD-ROM ドライブにサポート CD を挿入します。
055.	d:\ibmsetup と入力し、Enter を押します。 (ただし、d:は CD-ROM のドライブ名です。)
056.	「アプリケーションとデバイス・ドライバーの導入」のアイコンをクリックします。
057.	「Matrox Graphics Driver for WindowsNT4.0」を選択し、「追加」のアイコンをクリックします。
058.	「導入」のアイコンをクリックします。「重要」のウィンドウが開きますので、これを読んだあと、[OK] をクリックします。
059.	PowerDesk セットアップのウィンドウが開きます。言語として、「Japanese」を選び、[次へ] をクリックします。
060.	インストールの種類として「標準」を選びます (クリックします)。

ステップ	操作内容
------	------

061. MGA 関係のソフトウェアの導入が終わると、「次へ」をクリックします。
もし、ここで、



このウィンドウが表示された場合は、以下の手順を行います。一方、このメッセージが表示されない場合は、次のステップ 062 に進みます。

1. この「無効なディスプレイ設定」のウィンドウの「OK」をクリックする。
 2. 画面のプロパティのウィンドウで「テスト(E)」をクリックする。
 3. 「テストモード」のウィンドウで「OK」をクリックする。
 4. 「テストビットマップは正しく表示されましたか？」の問いに対し、「はい(Y)」をクリックする。
 5. 画面のプロパティのウィンドウの一番下の「OK」をクリックする。
 6. Matrox セットアップエラーのウィンドウの「OK」をクリックする。
 7. Matrox PowerDesk セットアップのウィンドウの「閉じる」をクリックする。
 8. 導入完了のウィンドウの「OK」をクリックする。
 9. 「スタート」->「設定(S)」->「コントロール パネル(C)」を選択する。
 10. Matrox Sheet Error のウィンドウが表示される場合は、「OK」を二度クリックする。
 11. 「画面」のアイコンをダブルクリックする。
 12. ディスプレイの設定のタブをクリックし、「無効なディスプレイ設定」のウィンドウが表示されなければ、画面のプロパティを「キャンセル」で終了し、コントロールパネルをクローズして、ステップ 058 に戻る。もし、「無効なディスプレイ設定」のウィンドウが表示された場合は、「OK」をクリックし、ウィンドウを閉じたあと、「テスト(E)」をクリックする。
 13. 「テストモード」のウィンドウで「OK」をクリックする。
 14. 「テストビットマップは正しく表示されましたか？」の問いに対し、「はい(Y)」をクリックする。
 15. 画面のプロパティのウィンドウの一番下の「OK」をクリックする。
 16. このステップ 11 に戻る。「無効なディスプレイ設定」のウィンドウ表示が表われなくなるまで、この手順を繰り返す。
-

ステップ	操作内容
062.	MGA PowerDesk の導入が完了すると、[閉じる] をクリックします。
063.	導入完了の場面で、[OK] をクリックし、続いて [メニューに戻る (M)]、[終了] をクリックし、「サポート CD」を閉じます。
064.	画面左下の「スタート」->「シャットダウン (U)」をクリックし、「コンピュータを再起動する (R)」を選んで、「はい (Y)」をクリックします。
065.	再起動されたあと、「Windows NT へようこそ」が表示されたら、「閉じる」をクリックします。 *: このとき、「Windows NT を次に起動するときも、このダイアログを表示する」のクリックを外しておくと、この画面は表示されなくなります
066.	「無効なディスプレイ設定」が表示された場合は、「OK」をクリックし、画面のプロパティ (もし、既に起動されていない場合は、「スタート」->「設定 (S)」->「コントロール・パネル (C)」を選択し、「画面」のアイコンをダブルクリックし、さらに「ディスプレイの設定のタブ」を選びます。) にて希望の解像度、カラー深度、リフレッシュ・レート等を設定し、「テスト」をクリックします。
067.	「OK」をクリックし、約 5 秒間待ちます。
068.	テストビットマップが正しく表示された場合は、「はい」をクリックします。
069.	「OK」をクリックします。これで解像度が変更されました。

C - 1'. ビデオのドライバーの導入 (Intergraph Intense 3 D アダプターの場合)

必要なもの : サポート CD

ステップ	操作内容
070.	画面左下の「スタート」->「ファイル名を指定して実行 (R)」をクリックします。
071.	CD-ROM ドライブにサポート CD を挿入します。
072.	d:\ibmsetup と入力し、Enter を押します。(ただし、d: は CD-ROM のドライブ名です。)
073.	「アプリケーションとデバイス・ドライバーの導入」のアイコンをクリックします。
074.	「Intergraph 3D Graphics for WindowsNT4.0」を選択し、「追加」のアイコンをクリックします。
075.	「導入」のアイコンをクリックします。
076.	ここではサポート CD から直接導入する場合を選択し「OK」ボタンをクリックします。
077.	表示された Readme に従い、[スタート]メニューの[設定]をポイントして、[コントロールパネル]をクリックします。[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
078.	[画面]アイコンをダブルクリックします。[画面のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
079.	[ディスプレイの設定]タブをクリックします。
080.	[ディスプレイの種類]をクリックします。[ディスプレイの種類]ダイアログボックスが表示されます。
081.	[変更]をクリックします。[ディスプレイの変更]ダイアログボックスが表示されます。
082.	[ディスク使用]をクリックします。[フロッピーディスクからインストール]ダイアログボックスが表示されます。
083.	“配布ファイルのコピー元”に次のように入力して、「OK」をクリックします。 d:\winnt\intgnt4 (ただし、d: は CD-ROM のドライブ名です。)

ステップ	操作内容
084.	ディスプレイから「Intergraph Intense 3 D Pro」を選択して、「OK」をクリックします。
085.	"サードパーティドライバをインストールしようとしています..." のメッセージが表示されるので、はい[]を選択します。
086.	「ドライバーは正常にインストールされました」と表示されたら、「OK」をクリックします。
087.	「ディスプレイの種類」の「閉じる」をクリックします。
088.	「画面のプロパティ」の「閉じる」をクリックします。
089.	「再起動しますか？」と表示されるので、CD-ROM ドライブより、サポート CD を取り出し、「はい」をクリックします。
090.	再起動されたあと、「Windows NT へようこそ」が表示されたら、「閉じる」をクリックします。 *： このとき、「Windows NT を次に起動するときも、このダイアログを表示する」のクリックを外しておく、この画面は表示されなくなります。また、Intergraph の注意の表示に対して、「OK」をクリックします。また、「起動時に通知を表示」のクリックを外しておく、この画面は表示されなくなります。
091.	「画面のプロパティ」の「ディスプレイの設定」にて希望の解像度、カラー数、リフレッシュ・レート等を設定し、「テスト」をクリックします。
092.	「OK」をクリックし、5 秒間待ちます。
093.	テストビットマップが正しく表示された場合は、「はい」をクリックします。
094.	「OK」をクリックします。これで解像度が変更されました。

C - 2. バスマスター IDE のドライバーの導入

必要なもの：

- サポート CD

*: バスマスター IDE のドライバーは必要に応じて導入してください。

ステップ	操作内容
095.	画面左下の「スタート」->「ファイル名を指定して実行(R)」をクリックします。
096.	CD-ROM ドライブにサポート CD を挿入します。
097.	d:\ibmsetup と入力し、Enter を押します。(ただし、d: は CD-ROM のドライブ名です。)
098.	「アプリケーションとデバイス・ドライバーの導入」のアイコンをクリックします。
099.	「Bus Mating IDE/SMART ドライバー for WindowsNT4.0」を選択し、「追加」のアイコンをクリックします。
100.	「導入」のアイコンをクリックし、サポート CD からの直接導入する場合を選択し、「OK」ボタンをクリックします。
101.	表示された Read me をクローズします。また続いて「メニューに戻る(M)」->「終了(X)」をクリックし、「サポート CD」を閉じます。
102.	「スタート」->「設定(S)」->「コントロール パネル(C)」とクリックします。「コントロール パネル」ウィンドウが表示されます。
103.	「SCSIアダプター」アイコンをダブルクリックします。
104.	ドライバ タブをクリックし、標準で導入されている「IDE CD-ROM(ATAPI1.2)/ Dual-Channel PCI IDE Controller」を選択して「削除」をクリックします。
105.	「はい」をクリックします。
106.	「SCSI アダプター」ダイアログボックスで、新しいドライバーを追加するために「追加」ボタンをクリックします。
107.	「ドライバのインストール」ダイアログボックスが表示されるので、「ディスク使用」ボタンをクリックします。

ステップ	操作内容
108.	"配布ファイルのコピー元" に次のように入力して、「OK」をクリックします。 d:¥winnt¥BUSMNT4 (ただし、d: は CD-ROM のドライブ名です。)
109.	「Intel PIIX PCI Bus Master IDE Controller」を選んで「OK」をクリックします。
110.	変更が有効になるようにシステムを再起動するため「はい」をクリックします。

C - 3. イーサネット (Intel EtherExpress) ・ドライバーの導入

必要なもの：

- サポート CD
- 未使用のディスケット 1 枚 (Intel EtherExpress Driver 用)

*: "Intel EtherExpress Driver" のドライバーは、必要に応じて導入してください。

ステップ	操作内容
111.	画面左下の「スタート」-> 「ファイル名を指定して実行 (R)」をクリックします。
112.	CD-ROM ドライブにサポート CD を挿入します。
113.	d:\ibmsetup と入力し、Enter を押します。(ただし、d: は CD-ROM のドライブ名です。)
114.	「アプリケーションとデバイス・ドライバーの導入」のアイコンをクリックします。
115.	「Intel EtherExpress Driver」を選択し、「追加」のアイコンをクリックします。
116.	「導入」のアイコンをクリックします。
117.	ディスケット・ファクトリーを使用してディスケットを作成します。「はい」をクリックします。
118.	2MB (HD) の未使用ディスケットを 1 枚用意し、「はい」をクリックします。
119.	ディスケットをドライブに挿入し、Enter キーを押します。
120.	「はい」をクリックし、ディスケットの内容が消去されることに同意します。
121.	書き込みが終了したら、ピッとピーブ音が鳴りますので、マウスを動かします。「ディスケットを作成中」のダイアログ・ボックスが表示されますので、ドライブからディスケットを取り出し、指定されたラベルを付け、「OK」をクリックします。
122.	「OK」をクリックします。

ステップ	操作内容
123.	「メニューに戻る」をクリックします。
124.	「終了」をクリックします。
125.	作成した「Intel EtherExpress Driver」のディスクをドライブ A に挿入します。
126.	画面左下の「スタート」->「プログラム」->「アクセサリ」->「メモ帳」の順に選択して、「メモ帳」を開きます。
127.	「ファイル」->「開く」で 3.5 インチ FD (A) を選び、Info、MS とクリックします。その後、Msnt40 をクリックし、「開く」をクリックします。
128.	Msnt40 の内容を確認します。
129.	ネットワーク・ケーブル (別売オプション) を、アダプターとハブに正しく接続します。そして以下の手順でデバイス・ドライバーを導入します。
130.	「スタート」->「設定 (S)」->「コントロール パネル (C)」とクリックします。
131.	「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
132.	アダプター タブを選択 (クリック) します。
133.	現在導入されているアダプターを削除します。「削除」をクリックします。
134.	「続行しますか？」に対し、「はい」をクリックします。
135.	追加を選択 (クリック) し、「ネットワークアダプタの選択」ダイアログボックスで「ディスク使用」アイコンを選択します。
136.	フロッピーディスクの挿入でドライブ名が A: のまま「OK」をクリックします。
137.	「Intel EtherExpress PRO Adapter」を選択して「OK」を選択 (クリック) します。
138.	導入が終了したら、「閉じる」をクリックします。
139.	例えば TCP/IP のプロトコルを使用する場合は、ここで IP アドレスを入力します。

ステップ	操作内容
140.	ドライブ A からディスクを取り出したあと、変更が有効になるようにシステムを再起動するため「はい」をクリックします。
141.	ドライブ A からディスクを、CD-ROM ドライブからサポート CD を、それぞれ取り出します。

C - 4. Cirrus Logic CrystalClear Audio ドライバーの導入

必要なもの：

- サポート CD
- 未使用のディスク一枚 (Cirrus Logic CrystalClear Audio 用ディスクに使用する)

ステップ	操作内容
142.	画面左下の「スタート」->「ファイル名を指定して実行 (R)」をクリックします。
143.	CD-ROM ドライブにサポート CD を挿入します。
144.	d:\ibmsetup と入力し、Enter を押します。(ただし、d: は CD-ROM のドライブ名です。)
145.	「アプリケーションとデバイス・ドライバーの導入」のアイコンをクリックします。
146.	「Cirrus Logic CrystalClear Audio for WindowsNT」を選択し、「追加」のアイコンをクリックします。
147.	「導入」のアイコンをクリックします。
148.	ディスク・ファクトリーを使用してディスクを作成します。「はい」をクリックします。
149.	2MB (HD) の未使用のディスクを用意し、「はい」をクリックします。
150.	ディスクをドライブに挿入し、Enter キーを押します。
151.	「はい」をクリックし、ディスクの内容が消去されることに同意します。

ステップ	操作内容
152.	書き込みが終了すると、ピッとピーブ音が鳴りますので、マウスを動かします。「ディスク作成中」のダイアログ・ボックスが表示されますので、ドライブからディスクを取り出し、指定されたラベルを付け、「OK」をクリックします。
153.	「OK」をクリックします。
154.	「メニューに戻る」をクリックします。
155.	「終了」をクリックします。
156.	ただ今作成された「Cirrus Logic CryatalClear Audio for Windows NT」のディスクをドライブ A に挿入します。
157.	「スタート」->「設定 (S)」->「コントロール パネル (C)」とクリックします。
158.	「マルチメディア」アイコンをダブルクリックします。
159.	「デバイス」タブをクリックします。
160.	「追加」のアイコンをクリックします。
161.	「一覧にない、または更新されたドライバ」を選択し、「OK」をクリックします。
162.	ドライバのインストールの画面で「A:」と入力し、「OK」をクリックします。
163.	「CrystalWare Audio Driver」が表示されたら、「OK」をクリックします。
164.	もし、既にシステムに導入されていた場合でも、新しいドライバをインストールする方を選択します。
165.	「OK」をクリックします。
166.	ドライブAからディスクを取り出した後、「再起動する (R)」をクリックして、システムを再起動させます。

D. Windows NT Service Pack 4 のインストールと Windows NT 4.0 の 2000 年問題を解決する Y2KSETUP.EXE の実行

必要なもの : Microsoft Windows NT Service Pack 4 Disk 1

ステップ	操作内容
167.	NT を起動させ、CD-ROM ドライブに「Service Pack 4 DISK 1」を挿入します。
168.	インターネット エクスプローラが自動的に起動され、Windows NT Service Pack 4 の画面が表示されます。
169.	「リリース ノート」をクリックします。 日本語版 Service Pack 4 の Readme ファイルが開かれるので、一読し、読み終えたならば「戻る」をクリックします。
170.	「Service Pack 4 のインストール」をクリックします。ファイルの処理方法は、「開く」を選択します。
171.	「OK」をクリックします。
172.	使用許諾を読み、契約に同意する場合、「同意する」に <input checked="" type="checkbox"/> (チェック) をし、「インストール」をクリックします。
173	OEM によってインストールされたファイルが検出された場合、これを Service Pack のバージョンに上書きするか、と聞かれた場合は、「いいえ (N)」を選択します。
174	「再起動」をクリックし、再起動します。
175.	再起動後、

Windows NT 4.0 の既知の 2000 年問題を解決するためには、一覧表示されているプログラム (またはそのバージョン以降のプログラム) をインストールする必要があります。

Microsoft Internet Explorer 4.01 Service Pack 1
Microsoft Data Access Components 2.0 Service Pack 1

Y2K.TXT ファイルを開いて、これらの製品の場所に関する詳細情報を表示しますか？

と表示されるので、「はい」をクリックします。

ステップ	操作内容
176.	「Windows NT 4.0 Service Pack 4 における西暦 2000 年問題への対応に関する情報」を一読し、メモ帳をクローズします。
177.	Service Pack Disk 1 を一旦取り出し、そして再び読み込ませます。
178.	「はじめに」に書かれている「¥I386¥update」をクリックします。
179.	ファイルの処理方法は「開く」を選択し、「OK」をクリックします。 もし、ここで、「セキュリティ警告」
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>発行者は次の問題のため判別できません。 AUTHENTICCODE署名が見つかりません。</p> </div>
	と表示された場合は、「はい(Y)」をクリックします。
180.	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>Windows NT 4.0 の既知の 2000 年問題を解決するためには、 一覧表示されている プログラム（またはそのバージョン以降のプログラム）を インストールする必要があります。</p> <p>Microsoft Internet Explorer 4.01 Service Pack 1 Microsoft Data Access Components 2.0 Service Pack 1</p> <p>今すぐこれらのプログラムをインストールしますか？</p> </div>
	と表示されるので、「はい(Y)」をクリックします。
181.	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>2000 年対抗のインストールが完了しました。 今すぐ再起動する必要があります。</p> </div>
	と表示されるので、「OK」をクリックします。
182.	再起動すると、Internet Explorer のセットアップが自動実行されま す。画面に従ってください。 CD-ROM ドライブより、Service Pack 4 CD-ROM を取り出します。

E. IBM Fire GL1 グラフィックス・アダプター用ビデオのドライバーの導入

注: この以下の手順は、IBM Fire GL1 グラフィックス・アダプターが搭載されているシステムのみ行います。

必要なもの: サポートCD

ステップ	操作内容
183.	画面左下の「スタート」->「ファイル名を指定して実行 (R)」をクリックします。
184.	CD-ROM ドライブにサポート CD を挿入します。
185.	d:\ibmsetupと入力し、Enter を押します。(ただし、d: はCD-ROM のドライブ名です。)
186.	「アプリケーションとデバイス・ドライバーの導入」のアイコンをクリックします。
187.	「IBM/Diamond Fire GL1 Driver for WindowsNT4.0」を選択し、「追加」のアイコンをクリックします。
188.	「導入」のアイコンをクリックします。「重要」という表示が表われるので、「OK」をクリックします。
189.	「次へ (N)」のアイコンをクリックします。
190.	「次へ (N)」のアイコンをクリックします。
191.	「インストールが終了しました。」と表示されるので、再起動のため、「次へ (N)」のアイコンをクリックします。

F. Intel(R) Streaming SIMD Extensions Driver のインストール

注: Intel(R) Streaming SIMD Extensions Driver は M Pro と E Pro
に対してのみ有効で、必要に応じて導入してください。

必要なもの : サポート CD

ステップ	操作内容
192.	画面左下の「スタート」->「ファイル名を指定して実行 (R)」をクリックします。
193.	CD-ROM ドライブにサポート CD を挿入します。
194.	d:\ibmsetup と入力し、Enter を押します。(ただし、d: は CD-ROM のドライブ名です。)
195.	「アプリケーションとデバイス・ドライバーの導入」のアイコンをクリックします。
196.	「Intel(R) Streaming SIMD Extensions Driver」を選択し、「追加」のアイコンをクリックします。
197.	「導入」のアイコンをクリックし、「OK」をクリックします。
198.	「続行」のアイコンをクリックします。
199.	「次へ (N)」のアイコンをクリックします。
200.	「製品ライセンス情報」を一読し、同意する場合は、「はい (Y)」のアイコンをクリックします。
201.	「次へ (N)」のアイコンをクリックします。
202.	「完了」のアイコンをクリックし、システムを再起動させます。

G. 同梱アプリケーションのインストール

必要なもの： サポート CD

システムに同梱されているアプリケーションの導入はサポート CD を使って行います。

ステップ	操作内容
203.	画面左下の「スタート」->「ファイル名を指定して実行 (R)」をクリックします。
204.	CD-ROM ドライブにサポート CD を挿入します。
205.	d:\ibmsetup と入力し、Enter を押します。(ただし、d: は CD-ROM のドライブ名です。)
206.	「アプリケーションとデバイス・ドライバーの導入」のアイコンをクリックします。
207.	導入するアプリケーションを選び、「追加」のアイコンをクリックします。
208.	「導入」のアイコンをクリックします。後は、画面の指示に従ってください。

付録B. プログラムのご使用条件の表示

「IBM プログラムのご使用条件 (保証適用外プログラム用)」は、初期導入済みソフトウェアの IBM ウェルカム・センターで見ることができます。プログラムのご使用条件を見るには、次のことを行ってください。

1. デスクトップから、「**IBM** ウェルカム・センター」をダブルクリックし起動します。
2. 「**IBM** プログラムの使用条件」をクリックします。
3. 日本語 (**Japanese**) を選択します。

「IBM ウェルカム・センター」を削除している場合は、サポート CD から IBM ユーティリティーを再導入すれば、参照することができます。詳細については、29ページの第5章、『サポート CD の使用方法』を参照してください。

この付録は、IBM 製品の可用性、特許、出願中の特許、および商標の情報の法的な特記事項を記載しています。

特記事項

本書において、日本では発表されていないIBM製品（機械およびプログラム）、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのようなIBM製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBMライセンス・プログラムまたは他のIBM製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBMの知的所有権を侵害することのない機能的に同等な他社のプログラム、製品またはサービスを使用することができます。ただし、IBMによって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する稼働の評価および検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBMおよび他社は、本書で説明する主題に関する特許権（特許出願を含む）商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用权等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用权等の許諾については、下記の宛先に、書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木3丁目2-31
AP事業所
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

商標

以下の用語は米国およびその他の国における IBM Corp. の商標です。

Alert on LAN	IntelliStation
Netfinity	HelpCenter
OS/2	IBM
Smart Reaction	Universal Management Agent
IBM Global Network	Wake on LAN
Netfinity	

Microsoft、MS-DOS、Windows、および Windows NT は、Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

Intel および LANDesk は、Intel Corporation の登録商標です。

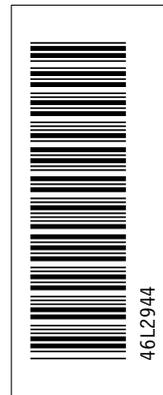
その他の会社名、製品名およびサービス名は、他社の商標またはサービス・マークです。



部品番号: 46L2944

Printed in Japan

1999年3月



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12



SA88-6693-00